

S14c **Swift/BAT硬X線サーベイで見つかった新AGNの「すざく」による観測(III)**

江口 智士、上田 佳宏 (京都大)、寺島 雄一 (愛媛大)、R. Mushotzky、J. Tueller (NASA/GSFC)

宇宙X線背景放射(CXB)は、多数の活動銀河核(AGN)からの放射の重ね合わせと考えられている。最近の種族合成モデルによれば、CXBの30 keV付近の強度ピークには、強い吸収($\log N_{\text{H}} > 23 \text{ cm}^{-2}$)をうけた「隠されたAGN」が大きく寄与する。しかし、隠されたAGNの検出は困難であり、この種族に関する理解はまだ不十分である。そこで我々は、*Swift*/BAT硬X線サーベイで新たに見つかった6つのAGNを「すざく」で追観測し、広域スペクトル解析の暫定結果を2008年春季年会で発表した。本ポスターでは、最新のキャリブレーション・データを使用した最終結果を報告する。BAT検出器のデータを使用してAGNの連続成分に対するカットオフ・エネルギーにという制限を与え、吸収体の数や反射成分の存在の有無などを考慮した3種類のモデルでスペクトル・フィットを行った。その結果、散乱成分が極端に弱く($< 0.5\%$)反射成分が強いグループと、散乱成分が大きめで反射成分の弱いグループにきれいに2分されることが分かった。前者が、分厚いトラスに深く埋もれた「新タイプAGN」に対応し、後者は「古典的AGN」に相当すると考えられる。我々の結果は、隠されたAGNに2つの異なる種族が存在する可能性を示唆する。